



幸せな贈り物

運命 を変える

幸せ健康法

もしかして

- ① 熱心に生きているのに、どうして生きているのかわかりなく、理解することができないむなしさや、価値のなさを感じて迷っていませんか。
- ② それで、自分も知らない間に、インターネット、みだらなこと、賭博、アルコール、ゲーム、麻薬に中毒になって、人間関係、家庭問題、経済問題で苦しんでいませんか。
- ③ あるいは、確かに経済的に、社会的に成功したのに人には話せない自分だけの悩みと、続く問題で苦しんでいませんか。
- ④ 先祖代々、偶像に仕えて占いや、お祓い、お札をつけているのに、災いと困難が続いているのではないですか。
- ⑤ とても努力して最善をつくしても、特別な理由や原因もなく、事業、職場、家庭に困難が続いているのではありませんか。
- ⑥ 未来の運命が分からなくて、いつも心細くてつらいのではないですか。
- ⑦ ストレスで苦しんで、うつ病で生きる意欲を失って、否定的な考えに捕らわれて、自殺したい衝動を感じていませんか。
- ⑧ 家庭と家系に願ってもいないのに、不治病や精神的な疾患で、家族が苦しんでいませんか。
- ⑨ 家庭不和による葛藤の中で、家出、墮落、不安、あせりでとても大きな苦しみがありますか。
- ⑩ 誤った友人関係によって、子どもが家出、墮落、さまよい、盗癖、いろいろな中毒症状で悩んでいませんか。
- ⑪ 毎晩、悪夢、金縛り、幻覚、幻聴に苦しんでいませんか。
- ⑫ 宗教を持っているのに、真の喜びや平安がなくて、罪責感と悪い霊に苦しめられていませんか。
- ⑬ 信仰生活をしているのに、真の答えと平安がなく、しきりに不信仰に捕らわれて問題の前で挫折して失望していませんか。

幸せな健康を願っていますか 韓国人の平均期待寿命が WHO（世界保健機関）の 193 の会員国の中で 17 位を占めました。世界保健統計 2010 によれば、2008 年生まれを基準にした韓国人の期待寿命は、平均 80 歳で、8 年前の 2,000 年の 76 歳と比べて、4 歳も増えました。韓国の男性の平均期待寿命は 76 歳で、女は 83 歳でした。しかし、身体上の障害や活動の障害なしで暮らす期間を言う健康寿命 (HALE) の場合、2007 年生まれを基準にした統計で、韓国人は 71 歳 (男 68、女 74) でポルトガル、スロベニアなどと同じ共同 28 位でした。一方、最近 10 年間の医療機関は 31.3% (1 万 9,366 ヶ所)、医療人は 54% (9 万 3,509 人) 増えたと現われました。特に高齢化によって、療養病院の増加が著しかったと健保審査評価院は明らかにしました。

長く生きることが問題ではなく、元気に生きることにもっと関心を置く時代に、幸せな生活まで加わったら、どれくらい素敵な人生になるのでしょうか！

幸せ健康法の開始 「人間は考える葦」という言葉で有名な数学者で物理学者、文学者、哲学者であるパスカルは〈パンセ〉で「人間は霊的な存在だ。それで、人の心の中には神様だけが満たすことができる空間がある」と言いました。最高の神学者と呼ばれるアウグスティヌスは、過去の墮落とさまよいから立ち返って来て「神様、あなたのご自分のために私たちが造られ、私たちの心はあなたの中で安らぐようになるまで、平安を見いだすことはできません」と告白しました。

神様のみことばである聖書を見れば、もともとの人間は、神様のかたちとして、神様を知って、礼拝することができる霊的な存在、神様と交わりながら全地を征服して治める、祝福された存在として創造されました (創世記 1:27~28、2:7)。魚が水中に、鳥

は空中に、木は地中に根をおろして生きなければならぬように、人間は神様とともに生きると本当の幸せを味わうようになります。これが神様の創造原理です。

ところで、どうして人間にこんなに解決することができない不幸な問題がたくさん起きるようになったのでしょうか。神様と人間の間には約束がありました(創世記 2:17)。ところが、人間はサタン(悪魔)の誘惑で、この約束を破る罪を犯し、罪を犯した結果で、人間は神様を離れるようになりました(ローマ人への手紙 3:23、創世記 3:1~6)。神様を離れた人間は、サタン(悪魔)の奴隷になってしまいました(ヨハネの福音書 8:44)。その結果、人間には呪いと災いと苦しみと死がやって来て、運命と運勢に縛られるようになりました(創世記 3:16~20)。最初の間であるアダムとエバが罪を犯した後に、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、私たちのたましいは、神様を離れて死んだたましいになりました。これが私たちの人間の根本問題です(創世記 3:1~6、ローマ人への手紙 3:23)。人間は結局、神様を離れてサタン(悪魔)の支配を受けながら生きるようになりました。

神様を離れた人間は、次のような問題で苦しみながら生きるようになりました。

神様とともにいなければならない人間が神様を離れて、自分も知らずに悪魔の支配を受けるようになりました(ヨハネの福音書 8:44)。その結果、迷信、偶像に陥って、占い、お祓い、善行をしてみるのが幸せはなく、引っ越しの日、方角、お墓の位置を思うとおりにすることができない運命と運勢、宿命に縛られて生きるようになります(エペソ人への手紙 2:2)。不安、むなしさ、虚無感、精神病、ノイローゼ、うつ病、不眠症など、変な呪いに捕らわれて、背景も良くて知識も多く、お金も多いのに、しきりに迷うようになります(エペソ人への手紙 2:3)。肉体はしきりに心配症、病気、不治病、悪夢にうなされて、金縛りにあって病名もなく苦しむようになり、生活の中で繰り返す失敗と葛藤を経験するようになります(使徒の働き 8:4~8)。結局、神様を否認して現実にだけ執着しているうちに死んでしまい、その後には地獄の永遠なさばきを受けるようになります(ヘブル人への手紙 9:27)。もっと深刻なことは、この苦しみが私の問題にだけ終わるのではなく、再び私の子どもに、そのまま譲られるという事実です(出エ

ジプト記 20:4~5)。多くの人が宗教、善行、哲学、科学などを通じて、こういう不幸の問題を解決しようと思い、神様に会おうと努力するのですが、人間自らの力ではこの問題を解決することはできません。

それで、神様が人間の問題を解決してくださるために、人間を救う計画を立てられました。その方法は神様が人間となってこの世に来られることでした(ヨハネの福音書 1:14、ローマ人への手紙 5:8)。その方がまさに「イエス・キリスト」です(マタイの福音書 1:21)。イエスは「救い主」(名前)、キリストは「油を注がれた者」(職分)という意味です。イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間にとって神様に会うようにする唯一の道である真の預言者です(ヨハネの福音書 14:6)。

イエス・キリストは、十字架で私たちの罪の代わりに死ぬことによって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放させた真の祭司です(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。

イエス・キリストは、聖書の預言どおり、十字架で死んで、3 日後に復活され、今も人間を苦しめて地獄に連れて行くサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼした真の王です(ヨハネの手紙第一 3:8)。それで、聖書はイエス様を「キリスト」だとおっしゃっています。言い換えれば、人間が絶対に解決することができない根本問題を完全に解決した方だということです。

それなら、どのようにして、私のすべての問題から解放されて救いを得ることができるのでしょうか。

イエス様をキリストとして信じて、私の心にお迎えすれば良いのです(ローマ人への手紙 10:9~10、ヨハネの福音書 1:12)。この時、神様の霊である聖霊様が私の中に入って来て、神様の子どもになった身分を得るようになり、元々の人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。今、この時間、あなたがイエス・キリストを受け入れて、神様の子どもになれば、はじめて、幸せな健康を得ることができるようになります(ヨハネの黙示録 3:20、ヨハネの福音書 5:24)。

**あなたは幸せではなければならない
大切な人です。**

聖書が話していることを 王様がご存知ですか

聖書は、実際に重要な三つのことを話しています。

一つ目は、**神様は生きていらっしゃる、すべての人間のいのちと万物を統治していらっしゃるという実際的な事実を話しています。**二つ目は、**人間が神様が分からないように最後まで失敗させる存在があるということです。**それがサタン(Satan)です。その実在についての話が聖書に出ています。そして三つ目、**そのように滅びるしかない人間を救い出して、神様に会うようにする方がいらっしゃいます。**

その方がイエス様です。

聖書はこの三つのことをずっと話しています。それで、この部分を実際に悟って信じれば、まず神様の子どもになります。そして、神様がくださる大きい力と答えを受けながら生きて行くようになります。

歴史の中で、多くの強大国がこの事実が分からなくて消えました。これ一つが分からなくて、世界中を歩き回りながら迷いつつ死んだ偉い人物も多いです。神様とサタンと救い主イエス様、これが分からなくて、多くの人がむなしく生きて、むなしく去って行きました。聖書は簡単に明らかにしているのに、ただそれを知らないの、このような問題に陥るようになったのです。魚は水で生きなければならないし、木は地に根をおろして生きなければならないように、人間は神様に会わなければなりません。人間が神様に会うことができないのが人生の問題で、イエス様を通じて神様に会うことが解答です。それ以外には何もありません。皆さんがいくら困難の中であっても、神様に会えば問題は解決されます。もし勉強する学生が勉強しながら神様が分かる知恵が深くなれば、まことに大きい力が生まれます。それで、箴言1章7節に「主を恐れることは知識の初めである」とおっしゃいます。神様を知ることが知識の開始ということです。しかも箴言22章4節を見ると「謙遜と、主を恐れることの報いは、富と誉れといのちである」と言われています。ですから、神様を知れば、すべての問題が解決されます。神様が今も生きていらっしゃる、聖霊で民を治めておられるということは、実際的な事実です。また、神様がおられるように、サタンも実際に存在します。聖書にだけサタンの戦略が暴露されています。悪魔が何をして、組織はどのようなものを持っていて、悪魔はどうして活動して、どんな方法で活動するかを、ただ聖書でだけ暴露しています。これが分からなくて霊的に苦しめられている人が多いのです。それで、聖書では何度も繰り返して、救いの道であるイエス・キリストが来られて、サタンの権威をうち破ったとおっしゃいます。これを実際に信じなさいということです。

だれでもイエス様を信じて受け入れる者には力が現われます。今も、だれでも主の御名を呼ぶ者は救われると約束されています（ローマ人への手紙10:13）。

神様の子どもの 毎日の祈り

愛の父なる神様、私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。キリストであると信じます。

いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。

今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



宇宙に創造主が必要でしょうか

おもしろい話ひとつ目/ 人間の科学技術が発展して、おごり高ぶるようになったある日、ある科学者が神様に向かって、いよいよ人間も人間を創造することができるようになったから試合をしてみようと提案した。いよいよ試合をするその日、一握りの土が各自の机の上に置かれた。開始のベルになる直前、神様はゲームの公平性がないと言った。なぜならば、土もそれぞれ自分の物を持って来なければならないのに、土は神様が創造された物なので、科学者は自分が創造した土を持って来なければならないということだった。結局、科学者が作った土を持って来るまでゲームは中断されることになったという話。

「種の起源」で知られた進化論者チャールズ・ダーウィンが生物学で創造主が必要ではないようにしてしまったが「ビッグバン(大爆発)理論」で有名なイギリスの世界的物理学者チャールズ・ホーキングも、最近の現代物理学は宇宙創造で神様のための席を残しておかなかったと言った。どうして科学者たちは自分の領域で科学の進歩を現わして研究の成果を出しながら、その重要な場で創造主を意識しないのか分からない。自分たちの研究成果を表して、その結果を最後に認める最後の審判官が、たぶん彼らが拒否したいが、存在を拒否することができない創造主だからではないかと思う。子ども達が学校で良い成績表をもらった日は、その知らせを聞いて喜ぶ母親に一目散に走って行く。自分の点数を広げて自分の胸をいっぱいにしなが、それを見つめる母親のほめことばを待つ。

人々が理解しにくい分野で、他の人が認めても認めなくても関係なく深く没頭した科学者たちは、自分たちの研究結果と成果をより次元高く理解してく

れて拍手してくれる対象を捜す。結局、人間の知性の最高の座にあるので、自分の固有領域を認めてくれることができる絶対的存在は創造主だけなのに、率直にその神様の存在を認めると、自分の研究が粗末なものになるしかない。だから、理論上では自分たちの理論を越える理論が神様しかないから、あえて創造主の座を無視するのだ。これは結局、善悪の知識の木の果実を取って食べたアダムの失敗が、今日も再演されているに過ぎない。

科学者たちの研究の背景には、必ず自然法則や物理法則という、神様が作られた説明することができない法則が存在する。彼らはその法則が存在する範囲の下での研究だけが可能で、その法則を離れては、どんな理論も展開することができない。結局、科学者だという以前に、たましいを持ったひとりの人間だから、必ず自ら自分がだれなのかを検証する事が要求される。賢い口と明哲な頭で神様の存在をあるないと区分することはできるが、今夜にでも、そのたましいを呼んで行くことができる神様の価値は、決して無視することはできない。研究者ならば研究して人類の発展のためにその結果だけを公表するのであって、創造主を取り上げて自分と聞く人を困らせるようにしない事だ。神様を無視すれば、研究ノートから神様という単語は消えるが、神様が彼のために作った美しい天国といのちを味わう価値まで消えるから、不毛な宇宙を贈り物でもらうよりは、夢のようなことだが、聖書に記録されたみことばを確信する楽しさまで奪ってはいけない。

おもしろい話ふたつ目 / ある大学の講義室の入り口にこんな文章が貼られた。「神様は死んだ-ニーチェ」何日か後にその横に、また別の文章が貼ってあった。「ニーチェは死んだ-神様」

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ